



一人一冊＝図書館



国	籍	モンゴル
職	種	機械検査
実習実施者		藤田螺子工業株式会社
監理団体		九州ネット協同組合

エンフトヤ ゾルザヤ
ENKHTUYA ZOLZAYA

数年前、幼い頃の友人は遠い田舎の花嫁になりました。そして、私たちは長い間合う事が出来ませんでした。私が、日本に来る時に彼女は遠くから都会へ娘さんと一緒に、私を見送りに来てくれました。娘さんは6歳で本を読むことが出来たので、私はその少女に本をプレゼントしました。可愛い少女は、本をもらって本当に嬉しそうでした。そして、少女はこう言いました。「あなたとあなたの友達大勢が、一人一冊、私に本を頂ければ、多くの本が集まり私の住む田舎にも図書館を持てるでしょう。」私は、そのアイデアを叶えたく友人と一緒に「一人一冊＝図書館」始めようと決めました。

最初に、友人と知り合いに「一人一冊＝図書館」のことを紹介して行くうちに作家や翻訳者にも出会うことが出来、このボランティア活動は意外と多くの人に知れ渡り、本を寄贈してくれる方も多くなり短期間でたくさんの本を集めることが出来ました。また、図書館に必要な多くのものも集めることが出来ましたし、友人により地方の知事にボランティア活動を紹介頂き良く話し合うことで、小学校の近くに無料で部屋を使えることになりました。更に、素晴らし

い人々からの寄付により部屋を改装して、子供たちが喜んで本を読める図書館が出来ました。多くの暖かい支援により可愛い少女の夢が叶いました。

私は帰国後、ボランティア活動を続けて、本が不足している多くの地方に、できるだけ図書館を増やし、多くの子供たちを喜ばせたいです。この素晴らしいアイデアを思いついた少女との電話で、世界的なコロナのために子供たちが、図書館に行って本を読むことが出きないと悲しんでいました。コロナの影響がなくなれば、本やお金を寄付して頂ける心の広い人々に会い活動の輪を広げ、多くの子供たちの未来のために協力して行くつもりです。

今まで活動して来たことにより、私はそのすべてから多くのことを学びました。私たち人間は、心の底からお互いに、そして子供たちに耳を傾ける必要があることに気づきました。他の人の話を聞くことができれば、他の人を助けるために出きることはたくさんあります。人々を助け、幸せにすることはそれほど難しいことではないことに気づきました。